

源氏物語（桐壺）

女御、更衣…あまたさぶらひたまひける

同じほど

下臈の更衣たち

いとやむことなき際にはあらぬが
すぐれて時めきたまふ（女性）

恨み

はじめより「我は。」と思ひ上がりたまへる御方々

え憚らせたまはず

世の例にもなるぬべき御もてなし

天皇

あかず、あはれなるもの 御心ばへのたぐひなき

上達部、

上人

いとまばゆき人の御おぼ

世も乱れ、悪しかりけれ

天の下

人のもてなやみぐさ

桐壺の更衣

世になく

清らなる

玉の

男御子

さ

珍らかなる

稚児の御容貌

いつしかと心もとながらせたまふ

私物に思ほしかしづきたまふ

限りなし。

天皇

おほかたのやむことなき御思ひ

寄せ重く、疑ひなき儲けの君

右大臣の女御

一の皇子